

『よそ者と集落による地域づくり』

ムラのこしサークル KOOGA～ニューヨークより集落～

筑波大学大学院生命環境科学研究科 修士2年 皆川孝弘

<概要>

千葉県富津市金谷の小規模集落において、筑波大学、國學院大學、立教大学等の学生が現地の方々と協働して行う地域づくりの取り組み。農作業による援農だけでなく、道路整備、商品開発、観光地づくり、集落間の調整など多くのプロジェクトを実行してきた。

<活動のきっかけ>

2009年3月に開催された農林水産省農村活性化人材育成派遣支援モデル事業「田舎で働き隊! in 金谷」である。当初は何となく参加した事業であったが、事業終了後も有志のメンバーが残り、月2回大沢集落を拠点に住民協働の地域づくりを実践している。

<これまでの成果>

2009年から現在まで、ヒアリング→課題整理→企画立案→実践という過程の中で、学生から様々な企画が発案され、集落の理解と協力を得た上で実践を行い、KOOGAは主に3つの成果を残した。

1つ目は商品開発による売上貢献である。第1弾は規格外甘夏の加工である。(写真参照)規格外甘夏を無添加ジャムに加工する事で集落の商品が生まれた。メンバーは定期的に東京のイベントへ出店し、消費者の声を生産者に伝え続けた。現在は改良を重ねた商品が地元直売所で販売され、ジャム作りは生産農家の雨天時の作業として定着している。2010年の協力農家における規格外甘夏ジャムの売上は75個であったが、2011年には170個の売上があり、東日本大震災による影響を受けながらも売上総利益は約2.2倍の収益増となった。(図1参照)

第2弾は古代米加工である。(写真参照)重労働かつ低収入として問題になっていた水稻栽培を、生命力が強く比較的管理をしやすい古代米に転作する事で、労力を減らすだけでなく、その古代米を伝統工芸品の原料として利用し販売した結果、1a当たりの収益を約7倍(注1)に上げ、経済面でも成果をあげた。(図2参照)また、古代米を実践した池田氏によると古代米独特の穂の色はイノシシの侵入を防ぐ効果があると述べており、有害鳥獣予防となる可能性を示唆した。また、古代米の加工作業時期である10月は集落において農閑期に当たり、農閑期における新たな仕事が生まれた。

2つ目は学生を招いての農山村体験である。これまでに50人以上もの学生を集落へ呼び込み、結果としてこの活動を契機に卒業後も定期的に訪れる学生や大沢で収穫したお米を日々の食卓で利用する学生、ここで農家になることを目指す学生も現れた。(写真参照)

3つ目は地域の内発力促進である。2012年現在、KOOGAの集落訪問回数は述べ130回を超えた。そんな中で新たな「湧水ホテルの里企画」が生まれた。本企画はKOOGAが企画したのではない。集落の方々が自発的に考え、KOOGAに提案してきたのだ。大沢の大自然を象徴する湧水、ホテルという周辺地域で大沢だけが持つこの資源を活用し、金谷か

らの観光客や交流者を引き込む為に企画された。現在、集落住民と学生、その関係者を中心に環境整備や具体的な計画が話し合われており、来年の5月完成を目途に企画が進められている。この企画はこれまでの4年間に渡る学生との交流の中で生まれた一つの成果であると言える。(写真参照)

また、4年間の活動を通じて得た信頼は日々大きくなり、よそ者としての信頼感を武器に集落の長年の問題であった私有地の問題解決に踏み込んでいる。大沢集落では他の集落と同様に私有地と共有地の整理が出来ていない土地がいくつかあり、地権者同士のトラブルが発生している。この問題は集落内地権者同士では解決不可能な状況となっており、両地権者から信頼を置かれている KOOGA のメンバー数名が間に立って所有地の整理を開始した。来年の3月までには調整を完了させ、両地権者の一定の合意を図ることを目的としている。

<本活動の目的について>

以上のような活動を展開していきたく KOOGA であるが、団体としての目標はムラのこし=集落の維持である。その為に単なるマンパワーによる援農活動だけでなく、農家所得の向上、観光地づくりなどの活動を行ってきた。団体としての目標は継続的展開によって「人は変われど、勢い変わらず」の状態を維持し続けることでムラのこしを目指す。そして、学生個人にもそれぞれ目標があり、癒しの場から修業の場まで様々な目的を持っている学生がこの集落で活動している。学生はこの集落で先人の知恵を学びながら日々成長している。集落住民は多くの学生の感性やアイデアを活用しながら、自身のやる気や課題解決の糸口を探している。大沢集落は末端集落であり、本来は身内しか来る理由がない地域である。また都会の学生も本来は行くはずがない地域であった。しかし、不思議な縁をきっかけに、お互いがお互いのニーズをマッチさせながら、活動が展開されている。

(注1) 2011年度の池田農園の1a当たりの古代米、米作の売上純利益から計算